

育児は本物の母性を 身につけるチャンス

1歳児といえば「悪意なき悪魔」とも
言われるほど、縦横無尽に動き始める時期。
この時期の親にとって大切なことは、
おおらかな心でお子さんと接することです。

日本ハグ協会会長
高木さと子さん

誰にもできる簡単なコミュニケーション
「ハグ」とコミュニケーションを合わせた
「ハグニケーション」を提唱。企業、団体、
家庭に向けてさまざまな講演活動やイ
ベントをに取り組んでいる。自身も15歳
と13歳の男の子のママ。



1歳児にとっては、会えるもののすべてが初めての体験。開けてみて、触れてみて、口に入れてみて、初めて自分に必要なものか、好きなものか、安全なものなのかを知っていきます。そう、1歳は“ものの善し悪し”について体験を通して学ぶ時期なのです。

まだ会話もままならない我が子は、囁む、泣く、走る、壊す、投げるなど、身体の機能を精一杯に使いながら、この世に順応しようと努力しています。どうぞ楽しみながら、おおらかに

見守ってあげてください。この時期は、ママにとっても“本物の母性”を身につけるチャンスなのですから。



もし、お子さんの行動にイラっとしてしまいそうな時には、「まあ、なんてカワイイの」、「天才!」なんて言葉を発してみましよう。言葉の持つ力を利用することで、自分の脳もポジティブに反応させることができます。そして、ゆっくりとした口調で「でもね、これは危ないんだよ」とか、「これから、ママに教えてくれると嬉しいな」と笑顔で伝えてあげてください。感情を先にぶつけてしまうと、お子さんには“怒っているママ”という印象しか残らず、何がいけなかったのか、何が危険だったのかが理解できません。

本当の意味での「良い子」とは、親にとって“都合の良い子”とは違います。他人からの評価に一喜一憂しない、ママ自身の強さも必要になります。1歳児は成長過程の中でも最も変化が激しく、ふり返ってみると「なんと可愛い時期だったのかしら」と思い出すことができます。どうぞ、貴重な時間を楽しんでくださいね。